

貸出回数上位の本～本館～

子どもから大人まで幅広く過ごしていただける憩いの場「図書館」。その魅力についてお伝えしていきます。今回は平成30年度（4月1日～2月28日）に本館で貸出回数が多かった本を紹介します。

【貸出回数上位10冊】

- 1位・153回
『バムとケロのさむいあさ』
- 2位・137回
『バムとケロのにちようび』
- 3位・121回
『コンビ二人間』（村田沙耶香 文藝春秋）
- 4位・114回
『かいけつゾロリの大金もち』
『火花』（又吉直樹 文藝春秋）
- 6位・112回
『バスがきました』（三浦太郎 童心社）
- 7位・111回
『かいけつゾロリのゆうれいせん』
- 8位・109回
『かいけつゾロリのきょうふの大ジャンプ』
- 9位・106回
『ラプラスの魔女』（東野圭吾 KADOKAWA）
- 10位・104回
『おべんとうバス』（真珠まりこ ひさかたチャイルド）

※かいけつゾロリシリーズ（原ゆたか／作・絵 ポプラ社）

※バムとケロシリーズ（島田ゆか／作・絵 文溪堂）

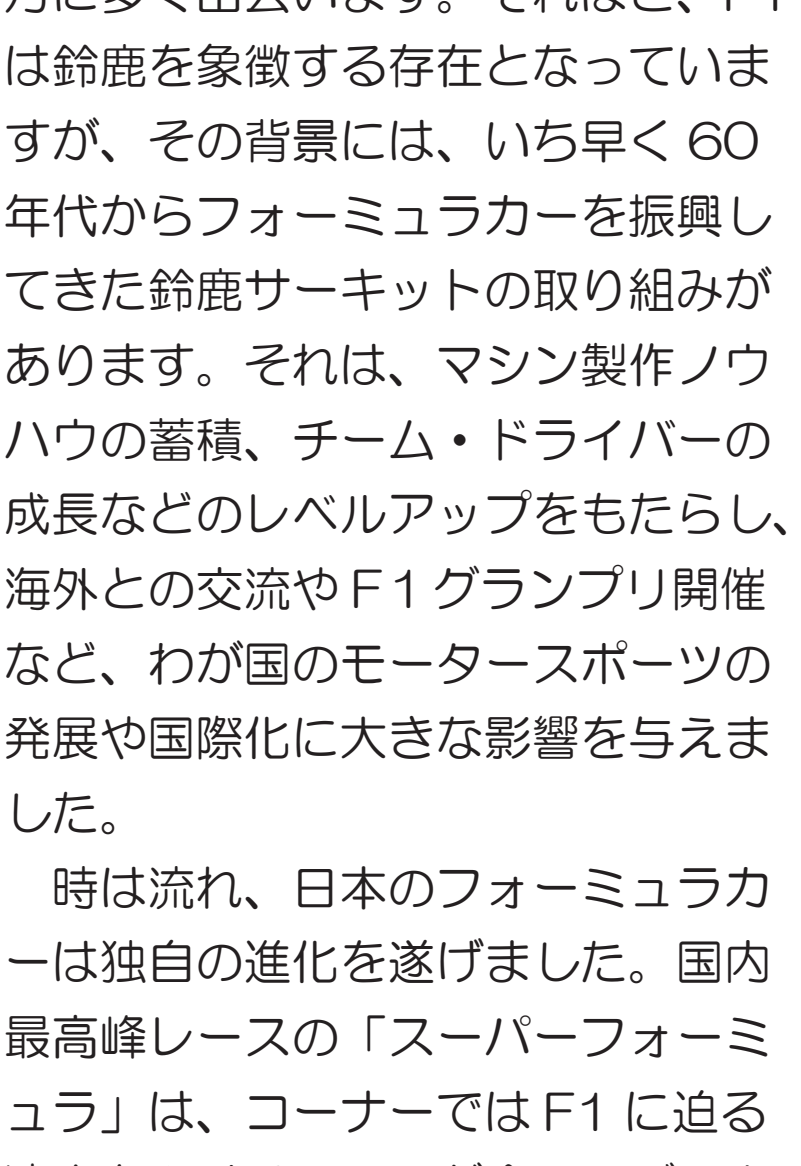
平成30年度、最も貸出回数が多かった本の上位2冊は、島田ゆかさん作の大人気シリーズでした。しっかり者のバムと遊びやいたずらが大好きなケロの日常を描いたかわいらしい作品で、何回読んでも新たな発見がある楽しい絵本です。

貸出回数上位の本以外にも、図書館では人気の本を多数取り揃えています。ぜひご来館ください。

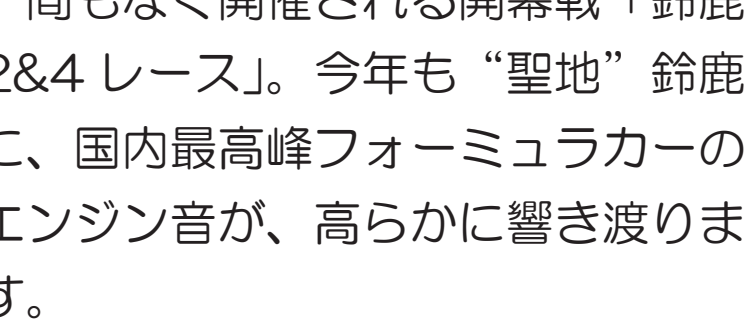
『バムとケロのさむいあさ』

（島田ゆか／作・絵 文溪堂）

きょうはとっても寒い日。こんな日はうらの池もきつと凍っているはず。バムとケロはスケートと釣りの道具をもって池にきました。すると、あひるさんが一緒に凍りついているではありませんか！二人は急いで助け出します。



【紹介文は株式会社図書館流通センターの書誌詳細より引用】



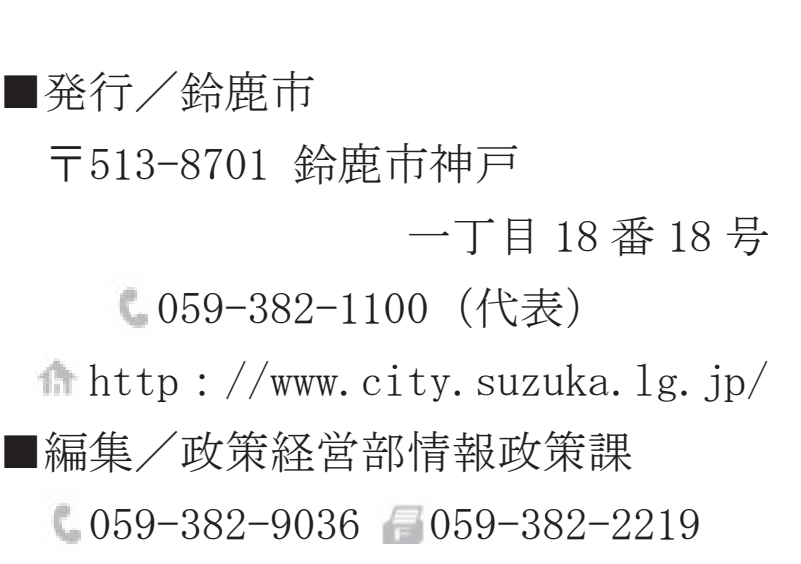
フォーミュラカーの“聖地”鈴鹿

速く走るための機能が集約されたレース専用マシン「フォーミュラカー」。F1（フォーミュラ・ワン）を頂点に、国内外でさまざまなカテゴリーのレースが行われています。

鈴鹿というと“F1”を連想される方に多く出会います。それほど、F1は鈴鹿を象徴する存在となっていますが、その背景には、いち早く60年代からフォーミュラカーを振興してきた鈴鹿サーキットの取り組みがあります。それは、マシン製作ノウハウの蓄積、チーム・ドライバーの成長などのレベルアップをもたらし、海外との交流やF1グランプリ開催など、わが国のモータースポーツの発展や国際化に大きな影響を与えました。

時は流れ、日本のフォーミュラカーは独自の進化を遂げました。国内最高峰レースの「スーパーフォーミュラ」は、コーナーではF1に迫る速さをみせるマシンが今シーズンより一新されるとともに、世界の有望なドライバーが参戦するなど、ハイレベルな戦いとして国内外から注目されています。

間もなく開催される開幕戦「鈴鹿2&4レース」。今年も“聖地”鈴鹿に、国内最高峰フォーミュラカーのエンジン音が、高らかに響き渡ります。



第2回日本グランプリ（1964年）フォーミュラカーレース

■中野能成（鈴鹿モータースポーツ友の会 事務局長）

キーボード



今回の特集では、オープンしたばかりの鈴鹿パーキングエリア「PIT SUZUKA」を紹介しました。取材で訪れた内覧会時の静けさから一転、オープン当日はとにかく人、人、人。各店舗には長蛇の列ができ、通路を進むと人波に流されてしまい、いつの間にやら店外へ、なんてこともありました。再度店内に突入し、脚立の上に立ってファインダー越しに見えたのは、人で埋め尽くされた光景でした。これほどの賑わいをみせたのも「PIT SUZUKA」が待ち望まれていた証で、魅力ある施設構成に尽力された関係者の皆さんの努力の賜物といっても過言ではないでしょう。

鈴鹿の西の玄関口としてだけでなく、市の魅力発信拠点として、夢や希望が詰まった「PITSUZUKA」。これからも多くの方に愛され、賑わう場であり続けてほしいと心から思いました。（一）

■発行／鈴鹿市
〒513-8701 鈴鹿市神戸一丁目18番18号
☎059-382-1100（代表）
↑ <http://www.city.suzuka.lg.jp/>

■編集／政策経営部情報政策課
☎059-382-9036 ☎059-382-2219
✉ johoseisaku@city.suzuka.lg.jp

■印刷・制作／指定就労継続支援事業所 八野就労支援センター印刷係
☎059-375-4381 ☎059-340-8810